

Teams用サイトコレクション(コミュニケーションサイト:モダンUI)の活用方法

■ Teams用サイトコレクション(コミュニケーションサイト:モダンUI)の活用方法

検証用サイト「o365チーム:https://o365ymf.sharepoint.com/sites/msteams_7daa92」に想定される機能を追加して確認します。

- ① テンプレート機能などを有効にするため、「カスタム スクリプトの有効化」を設定
⇒この設定により、「サイトテンプレート」「リストテンプレート」「クラシックUI用各種Webパーツ」機能が有効になります。以下に示す検証は「労務」サイトでも類似環境なので、参考になる
- ② 検証用サンプルコンテンツ「ドキュメントライブラリ」「カスタムリスト」を作成
⇒Teams用サイトコレクションのコンテンツ「ドキュメントライブラリ」「カスタムリスト」の閲覧確認が可能です。
- ③ 検証用サンプルチャンネル「o365チーム①」「TeamsConnectの検証①」を作成
⇒Teams標準で作成される「ドキュメント：Shared Documents」配下にフォルダーが作成され、「ファイル」にアップされたファイルの確認が可能です。
- ④ 検証用サイトのタブに「o365チーム」「ドキュメントライブラリ」「カスタムリスト」「SPO勉強会」(OneNoteへのリンク)「MS関連資料」(別サイトのドキュメントライブラリへのリンク)等
⇒この設定により、サイト内のコンテンツと他サイトのコンテンツの閲覧確認が可能です。

【画像イメージ】



サイトコレクションのアップグレード	構成のインポート
Microsoft Search	構成のエクスポート

【① カスタム スクリプトの有効化設定で拡張された機能の検証】

サイト列、サイトテンプレートの追加・参照、リストテンプレートの追加・参照、クラシックUIでのWebパーツの選択などの動作を確認
ディスカッションサイトに対する操作がチームサイトでの操作と比較して、確認する事が必要。

【②サンプルコンテンツ「ドキュメントライブラリ」「カスタムリスト」の動作検証】

サンプルコンテンツ「ドキュメントライブラリ」「カスタムリスト」の動作検証として、アクセス権限設定に基づき想定される通り動作するかなどの確認。
このドキュメントは、Microsoft365グループや標準のSharePointグループでも管理できるので、その点を留意して検証する事が必要。

【③サンプルチャネル「o365チーム①」「TeamsConnectの検証①」の動作検証】

「ドキュメント：Shared Documents」配下に作成されたフォルダーが設定されたアクセス権限で制限されるかの動作の確認。
このドキュメントは、Microsoft365グループのみで管理されるので、その点を留意して検証する事が必要。

【④タブ「o365チーム」「ドキュメントライブラリ」「カスタムリスト」「SPO勉強会」「MS関連資料」クリック時の動作検証

タブ「o365チーム」「ドキュメントライブラリ」「カスタムリスト」「SPO勉強会」(OneNoteへのリンク)「MS関連資料」(別サイトのドキュメントライブラリへのリンク)を
クリックした時の動作検証として、リンク先のアクセス権限設定に基づき、想定された通り動作するかなどの確認。
他サイトの「SPO勉強会」ドキュメントは、SharePointグループのみ管理しているので、その点を留意して検証する事が必要。

■ Teams用サイトコレクション(コミュニケーションサイト:モダンUI)環境作成

抽出した「Teams」サイトを他のチームサイトと類似したユーザー環境にする簡易手順をご紹介します。

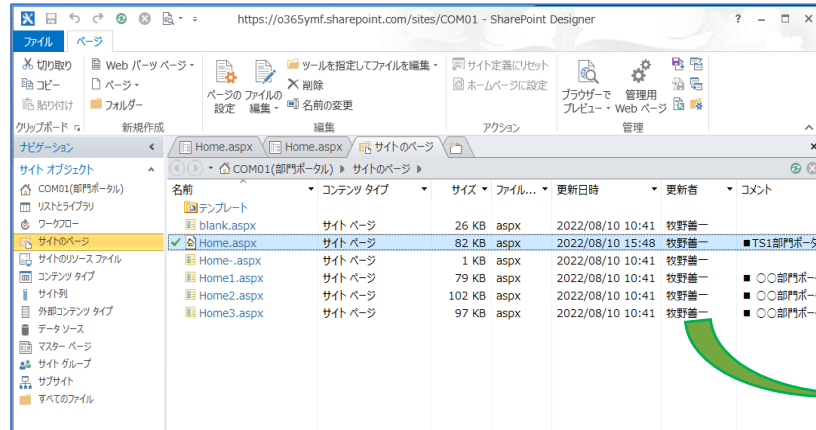
以下の手順で対応する事により、手動で1から作成する事なく「サイトページ」が作成できるので、大幅な作業削減が期待できます。

①部門ポータルに作成しているも4種のサイトページをTeamサイトのサイトページに作成(複写)

「SharePoint designer2013」を使って、部門ポータルのテンプレートに作成済4種のサイトページを複写すれば、作業ノウハウも不要で簡単です。その後、使用するサイトページをホームページとして選択し、レイアウト編集・設定するだけで作業完了です。

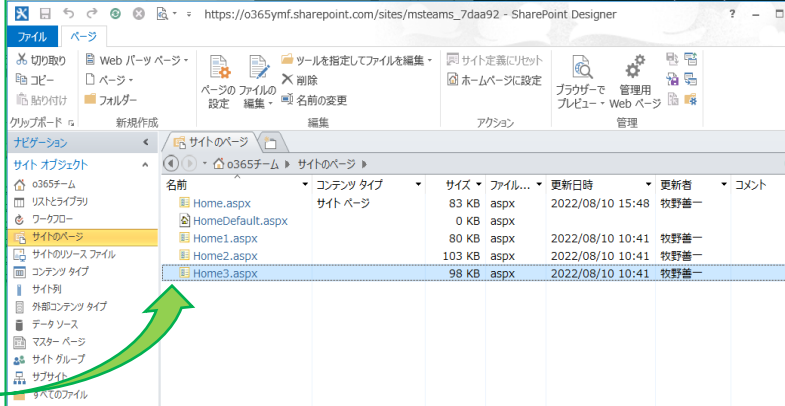
※ご存じと思いますが、念のため、認識合せのため記述しています。

【複写元:部門ポータルテンプレートサイト】

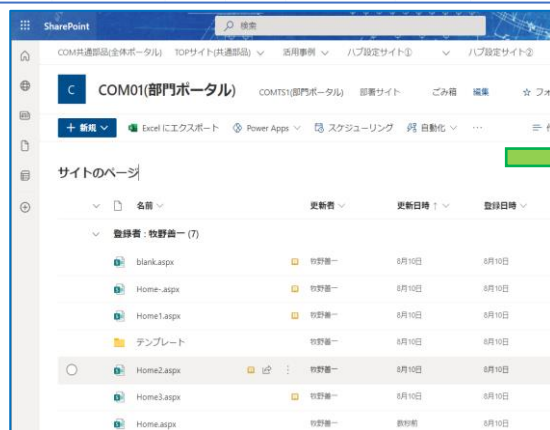


名前	コンテンツタイプ	サイズ	ファイル...	更新日時	更新者	コメント
テンプレート	サイト ページ	26 KB	aspx	2022/08/10 10:41	牧野善一	
blank.aspx	サイト ページ	82 KB	aspx	2022/08/10 15:48	牧野善一	■TS1部門ポータル
Home.aspx	サイト ページ	1 KB	aspx	2022/08/10 10:41	牧野善一	■○○部門ポータル
Home1.aspx	サイト ページ	79 KB	aspx	2022/08/10 10:41	牧野善一	■○○部門ポータル
Home2.aspx	サイト ページ	102 KB	aspx	2022/08/10 10:41	牧野善一	■○○部門ポータル
Home3.aspx	サイト ページ	97 KB	aspx	2022/08/10 10:41	牧野善一	■○○部門ポータル

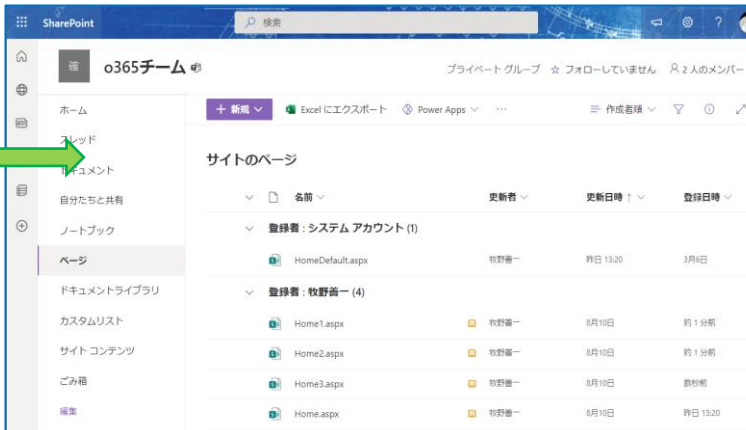
【複写先: Teams用サイト】



名前	コンテンツタイプ	サイズ	ファイル...	更新日時	更新者	コメント
Home.aspx	サイト ページ	83 KB	aspx	2022/08/10 15:48	牧野善一	
HomeDefault.aspx	サイト ページ	0 KB	aspx			
Home1.aspx	サイト ページ	80 KB	aspx	2022/08/10 10:41	牧野善一	
Home2.aspx	サイト ページ	103 KB	aspx	2022/08/10 10:41	牧野善一	
Home3.aspx	サイト ページ	98 KB	aspx	2022/08/10 10:41	牧野善一	



名前	更新者	更新日時	登録日時
blank.aspx	牧野善一	8月10日	8月10日
Home.aspx	牧野善一	8月10日	8月10日
Home1.aspx	牧野善一	8月10日	8月10日
テンプレート	牧野善一	8月10日	8月10日
Home2.aspx	牧野善一	8月10日	8月10日
Home3.aspx	牧野善一	8月10日	8月10日
Home.aspx	牧野善一	8月10日	8月10日



名前	更新者	更新日時	登録日時
HomeDefault.aspx	牧野善一	昨日 13:20	3月6日
Home1.aspx	牧野善一	8月10日	約 1 分前
Home2.aspx	牧野善一	8月10日	約 1 分前
Home3.aspx	牧野善一	8月10日	数秒前
Home.aspx	牧野善一	8月10日	昨日 13:20

②部門ポータルに作成している「サイト列」「サイトコンテンツタイプ」の作成

既にサイトテンプレートの「サイト列」作成用にPowerShellを準備しているため、それを「Teams」サイトで実行すれば、作業ノウハウも不要で簡単です。「サイト列」「サイトコンテンツタイプ」は、サイトコレクション毎リソースであるため、(テナント)固有GuidId管理しているため、複写機能は使用すると複写元を参照元のリソースを参照した事になるため、想定した設定にならない事を留意してください。

※ご存じとは思いますが、念のため、認識合せのため記述しています。

列名	種類	グループ
_CPFAQ		
FAQ分類	管理されたメタデータ	_CPFAQ
よくある問い合わせ	はいいいえ (チェック ボックス)	_CPFAQ
_CP会議		
「上程会議名」1	1 行テキスト	_CP会議
「上程会議名」2	1 行テキスト	_CP会議
関連会議資料1	ハイパーリンクまたは画像	_CP会議
関連会議資料2	ハイパーリンクまたは画像	_CP会議
議題No.	数値 (1、1.0、100)	_CP会議
議題区分	選択肢 (メニューから選択)	_CP会議
結論	選択肢 (メニューから選択)	_CP会議
結論: コメント	複数行テキスト	_CP会議
資料修正	選択肢 (メニューから選択)	_CP会議
_CP基本		
×システム管理番号	1 行テキスト	_CP基本
×リファレンス番号	1 行テキスト	_CP基本
×文書毎分類1	選択肢 (メニューから選択)	_CP基本
コメント(説明)	複数行テキスト	_CP基本
下書き・公開編集者	選択肢 (メニューから選択)	CP基本

名前	グループ	親
_CP		
FAQ	_CP	アイテム
ドキュメントセット	_CP	ドキュメント セット
会議資料	_CP	ドキュメント
会議資料ドキュメントセット	_CP	ドキュメントセット
会議資料フォルダー	_CP	フォルダー
公文書管理	_CP	ドキュメント
公文書管理ドキュメントセット	_CP	ドキュメントセット
公文書管理フォルダー	_CP	フォルダー
問合せ管理	_CP	アイテム
掲示板	_CP	アイテム
汎用ドキュメント	_CP	ドキュメント
汎用ドキュメントセット	_CP	ドキュメントセット
汎用フォルダー	_CP	フォルダー
汎用リスト	_CP	アイテム
規定	_CP	ドキュメント
規定ドキュメントセット	_CP	ドキュメントセット
規定フォルダー	_CP	フォルダー
部署ドキュメント	_CP	ドキュメント
部署ドキュメントセット	_CP	ドキュメントセット
部署フォルダー	_CP	フォルダー
部署リスト	_CP	アイテム
部署リストフォルダー	_CP	フォルダー

③部門サイトに作成している各種コンテンツの作成 ⇒ リストテンプレートの作成

各コンテンツ(リストやライブラリ)は、サイトコレクション毎の「サイト列」「サイトコンテンツタイプ」参照により作成されるため、他サイトコレクションで作成したリストテンプレートを活用する場合、定義された「リストコンテンツタイプ」がサイト内の「サイト列」「サイトコンテンツタイプ」に参照が変更されているか「GUIDが変更されているか」の検証が必要です。

もし、変更されない場合は、作成サイト上で、リストを作成し、そのリストを基にリストテンプレートを作成する事を実施してください。

※ご存じとは思いますが、念のため、認識合せのため記述しています。

【労組サイトへの作業内容の概略】

- ① サイトページの作成
 - ② サイト列の設定
 - ③ 展開コンテンツに該当するNotesDBのアセスメント
 - ④ NotesDB毎のACL情報の取得
 - ⑤ サイトコンテンツタイプの設定
 - ⑥ コンテンツ枠の作成
 - ※ フォーチャーよりリストテンプレートの掲示はあるのかの確認は必要
 - ・ 労働組合の掲示板
 - ・ 労組員の声(NotesDB不明)
 - ・ 労働組合の掲示板「生協労連」
 - ・ 労働組合の掲示板アーカイブ
 - ・ 笑顔とどけ隊(EIGYO_43.nsf)
 - ・ 資料室の掲示板(KANRI_12.nsf)
 - ⑦ NotesDB⇒SPO マッピング作業とデータ移行
 - ⑧ アクセス権限設定 ←★コントロールが難しい(Mさん)
 - ⑨ Teams環境設定
 - ⑩ TeamsConnect設定 ←★MS回答待ち(Mさん)
-

【労組質問:2022.07.20】

「Teams」の中で全体で共有したい資料があった場合、別途ポータルにも資料を格納し掲示する方法ではなく、「Teams」内の資料に対して閲覧権限などのアクセス権限を付与できないか。

【CIS回答】

「Teams」上でアップロードしたファイルは、Microsoft365グループで管理されたライブラリへ格納されるため、任意にアクセス権限の付与はできません。

SharePointチームサイトのドキュメントライブラリと同様なアクセス権限の付与による管理は、別のチームサイト内のライブラリを「Teams」タブに追加するなどの設定をし、そのタブでリンクされるライブラリへファイルをアップロードする方法が一般的で、「Teams」のチャットにそのファイルのリンクを記述すれば、アクセス権限のある方々は閲覧可能です。

「Teams」は、以前の「Links」や「SkypeForBusiness」に変わる「コミュニケーションツール」であり、期待するアクセス権限が付与できるファイル管理機能はない事を留意して頂けると幸いです。

★N生協と共通掲示板MTG(17:00～)

上記のMTGでフューチャーさんが気にしていた内容について

①Teamsは、専用のMicrosoft365グループのサイトが生成させる

共済連の佐藤さん：このサイトは作成したくない。 ←回答：このサイトがないとTeamsは作成できないので無理。

②コミュニケーションサイト内に作成したコンテンツへのリンク設定と閲覧は可能か？

回答：可能です。「e-ラーニング サイト」(コミュニケーションサイト)のドキュメントライブラリ(PDF資料)に連携しています。

Teams活用テストをご確認ください。

名前	更新日時	更新者
SharePointを学ぼう_00.著者紹介.pdf	5/12/2022 12:01 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_01.公開情報等の紹介.p...	5/12/2022 12:01 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_02.SPO概要とサイト...	5/12/2022 12:01 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_03.テンプレートの概...	5/12/2022 12:01 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_04.テンプレート作成...	5/13/2022 9:33 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_05.テンプレート展開...	5/12/2022 12:01 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_06.テンプ...	5/13/2022 9:34 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_07.ドキュメントライ...	5/13/2022 9:34 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_08.PowerPlatForm.pdf	5/13/2022 9:35 PM	牧野 善一
SharePointを学ぼう_09.事例_作業依頼サイ...	5/13/2022 9:35 PM	牧野 善一

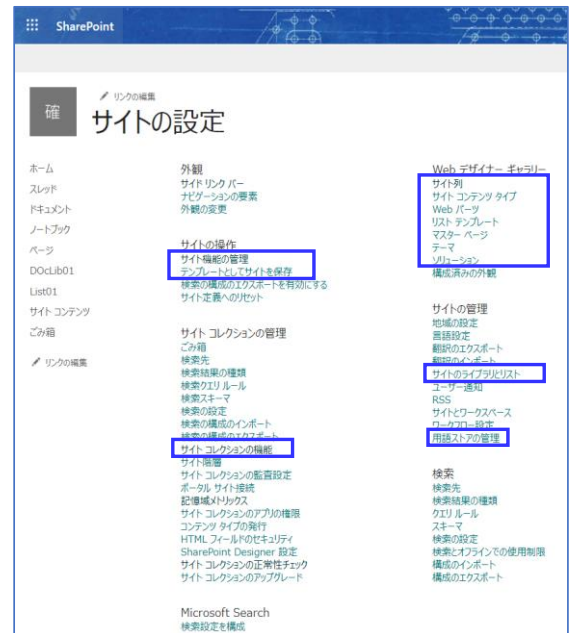
【Teamsサイトコレクションの環境設定 イメージ】

①Teamsの追加 チャンネルの追加

Teamsタブへコンテンツへのリンクの追加



②テンプレート機能の有効化 後のサイトの設定画面



③サイトの環境設定 - サイトページ



④サイトの環境設定 - サイト列、サイトコンテンツタイプ



⑤サイトの環境設定 - リストテンプレート



⑥サイトの環境設定 - ソリューション



⑦サイトの環境設定 - 用語セット



Teamsサイトの設定画面。

◆労組ポータルサイト「M365-Teams用」 アクセス権限はフルコントロールでない場合のキャプチャー

<https://jccunion.sharepoint.com/sites/jccu-kyousai-rouso>

The image shows a sequence of five overlapping screenshots from a Microsoft Teams SharePoint site, illustrating the steps to reach the 'Object User Settings' (対象ユーザー設定) page. The screenshots are connected by blue arrows indicating the navigation flow.

- Screenshot 1 (Top):** Shows the Teams interface with the 'jccu-kyousai-rouso' site selected. A blue arrow points to the '設定' (Settings) button in the top right corner.
- Screenshot 2:** Shows the '設定' (Settings) page. A blue arrow points to the 'クイックリンク' (Quick Links) section on the right, specifically to the 'サイトの設定' (Site Settings) link.
- Screenshot 3:** Shows the 'サイトの設定' (Site Settings) page. A blue arrow points to the 'ドキュメントライブラリ' (Document Library) link in the left-hand navigation pane.
- Screenshot 4:** Shows the 'ドキュメントライブラリ' (Document Library) page. A blue arrow points to the '設定' (Settings) button in the top right corner.
- Screenshot 5 (Bottom):** Shows the 'ドキュメント' (Documents) page. A blue arrow points to the '対象ユーザー設定の有効化' (Enable Object User Settings) checkbox, which is highlighted with a red box.

The final screenshot shows the '対象ユーザー設定の有効化' (Enable Object User Settings) checkbox selected, with the following text below it:

対象ユーザー設定の有効化
特定の対象ユーザーにコンテンツを異称します。対象ユーザーは、Office 365 グループと Azure Active Directory グループを含めることができます。

[対象ユーザーの設定の有効化] を選択して、ニュースやハイライト コンテンツなどの最新の Web パーツを使用できるようにします。

[従来の対象ユーザー設定の有効化] を選択して、コンテンツ クエリなどの従来の Web パーツを使用できるようにします。

詳細を表示

OK キャンセル

Teamsサイトの設定画面。

共有チャンネルでTeamsのユーザー体験を変える！Microsoft Teams Connect

「Microsoft Teams Connect」は、異なる組織のTeamsの「チャンネル」を接続することで、円滑な外部組織とのコミュニケーションを実現する機能で、2022年4月、パブリックプレビュー版としてリリースされました。

今迄のTeamsでは、社内ユーザーとのやり取りは「ゲストアカウント」を作成してコミュニケーションを取る必要があり、毎回テナントの切り替えが必要など、便利性において課題がありました。ここで紹介するサンプルは、異なる組織のチーム同士を繋げるパターン」の設定方法で、「テナントA」のチームで作成したチャンネルに、「テナントB」のチームを招待するというケースです。

1. 設定方法

(1) プレビューの設定 ※正式に提供されれば不要な作業

① Teams 管理センターでパブリックプレビューをオンにする

[Teams 管理センター] > [Teams 更新ポリシー] において、[プレビュー機能を表示]を[有効]にします。

テナントに設定が反映するのは時間がかかるようなので、設定したらちょっと間を置きましょう。

The screenshot shows the Microsoft Teams Admin Center interface. On the left, the navigation pane includes 'Home', 'Users', 'Teams and Groups', 'Roles', 'Licenses', 'Support', 'Settings', 'Setup', 'Reports', and 'Health'. The main content area displays the 'Teams Update Policy' settings. The 'Preview Feature' is set to 'On'. Below this, there are sections for 'Update Policy Summary' and 'User Summary'. The 'Update Policy Summary' shows '1' for 'Default Policy' and '0' for 'Custom Policy'. The 'User Summary' shows '0' for 'Custom Policy' and '14' for 'Default Policy'. At the bottom, there is a table with columns for 'Name', 'Description', 'Policy', and 'Preview Feature'.

名前	説明	ポリシー	プレビュー機能
グローバル (組織全体の既定値)		いいえ	有効

② 個人のTeams メッセージ画面でパブリックプレビューを有効化

次に、個人のTeams メッセージ画面でパブリックプレビューを有効化します。 Web版でもクライアント版でも右上の「・・・」ボタンから設定を行うことができます。

★現在、「Microsoft Teams Connect」は、パブリックプレビュー版での公開であり、Teams上でパブリックプレビューをオンにしないと利用することはできません。
もちろん、正式版がリリースされた後は、この設定は不要になります。

(2) 共有チャネルのポリシーを設定

Teamsの管理センターで共有チャネルのポリシーを設定します。

私のテナントではデフォルトで許可をされていましたが、これがオフになっていると、「Teams Connect」を利用することはできません。

(3) AzureAD B2B直接接続の設定

AzureADクロステナントアクセスポリシーで「AzureAD B2B 直接接続（B2B Direct Connect）」を構成します。

まず、[Azure Active Directory 管理センター] > [External Identities] > [クロステナントアクセス設定] に、コラボレーションする組織を**双方の環境**で追加します。

ここで入力するのはテナントIDか [XXX].onmicrosoft.com といったプライマリドメインです。

次に、設定した組織に対してのインバウンドとアウトバウンドのアクセスをそれぞれ設定していきます。

★「AzureAD B2B 直接接続（B2B Direct Connect）」はTeams Connectのセキュリティの鍵を握る機能です。

設定の際にはアクセス許可の範囲に配慮しながら設定するようにしてください。

(4) 共有チャネル（Shared Chanel）を作成し、外部ユーザーを招待

共有チャネル（Shared Chanel）を作成し、外部ユーザーを招待します。

まずは、Teamsの共有チャネルを作成します。

自分が管理権限を持っているチームにおいて、[チャネルの「…」ボタン] > [チャネルを追加] を押下して、チャネルを作成します。

その時に、下記の図のように[共有済み]のチャネルを選択し、[作成]を押下します。

すると、チャネルが新規に作成され、下記の図のようにチャネルにユーザーを招待する画面が出てきます。

ここで、外部組織のユーザーを招待したいところですが、今回のユースケースの「異なる組織のチーム同士を繋げるパターン」の設定はここではありません。

スキップしましょう。

次に、接続したい外部組織のチームの「チーム管理者」に招待を送ります。

接続したいチャネルで[チャネルを共有]を押下し、オプションでは[チームと]を選択します。

後続の画面では、接続したい外部組織のチームの「チーム管理者」のメールアドレスを入力します。

★今回は「チームと」を選びましたが、他の選択肢の挙動は「他の組織のチームとの接続以外の機能」の項にまとめています。

すると、招待された側のテナントに招待をされた旨の通知メッセージが届きます。

承認すると、どのチームにチャネルを追加するかを選択する画面に遷移します。ここで今回接続したいチームを選択しましょう。

★たとえ「チーム」に所属していたとしても、「チーム管理者」の権限がないと、Teams Connectを構成することはできません。

(5) 動作確認

招待する側の目線では、作成したチャネルに、「テナントB（招待された側）」のユーザーが現れて、チャットを行うことができます。

招待された側の目線では、Teams Connectを構成する中で選択したチームに新たなチャネルが出現し、招待したテナントのユーザーとコミュニケーションを取ることができます。

2. メリットや気になる点 等

(1) UXが劇的に改善

「劇的に」の部分は完全に主観ですが、Teamsを利用した異なる組織とのコラボレーションがシームレスとなることは間違いありません。

以前私は、Teamsのデスクトップアプリ版で自社のTeamsにログインし、ブラウザ版で他社（お客様）のTeamsにログインするという使い分けをしてきましたが、そのような使い分けや、テナントの切り替えが不要となったことは画期的だと思います。

(2) 他の組織のチームとの接続以外の機能

先ほどの手順では、共有チャンネルに招待する際に「チームと」共有（異なる組織のチームとコラボレーション）を選択して検証しましたが、今回のアップデートでは他にも「ユーザーと」と「自分が所属するチームと」というオプションがあります。

ユーザーと

「チームと」の共有は異なる組織のチーム同士をチャンネルを通じて接続しましたが、この「ユーザーと」はユーザー個人をチャンネルに招待する設定です。この設定で招待しても、招待されたユーザーはテナントの切り替えをすることなくアクセスが可能です。

自分が所属するチームと

一方、「自分が所属するチームと」というオプションは、端的にいうと「社内のチーム同士を接続する」設定です。下記の図では「taguchi-test」というチームと「taguchi-test-3」というチームを連結しております。

Teamsは「チームが増えすぎてしまう問題」が頻繁に発生しています。

例えば、「開発部」と「管理部」というチームがあったとしても、それらの部が連絡を取り合うために、新しく「開発部-管理部」というチームを作成するというのは良くある話です。このようにTeamsのチームは無限増殖しやすいです。

そこでこの機能を使えば、作成するチームを抑えることが可能となるケースもあるかなと思いますので、個人的にはこの設定も激アツだと思っています

(3) 勝手に共有チャネル接続を増やされる問題について

この機能が出るまで、ユーザーが勝手に共有チャネルを増やし、意図しない組織と連携する懸念がないかなと少し不安でした。

その懸念に対しては、「AzureAD B2B 直接接続（B2B Direct Connect）」の適切な運用が解決策になるかなと思います。

デフォルトでは、「AzureAD B2B 直接接続（B2B Direct Connect）」はインバウンドもアウトバウンドもオフに設定されており、オフの状態ではTeams Connectを構成することはできません。

また別の角度で見ると、Teams Connectを設定するには「チーム管理者」の権限が必要なので、「チーム管理者」の権限を最小化していくことでも、リスクを軽減させられると思います。

④ 招待された側はチャンネル名は変更できない

Teamsでは招待された側はチャンネル名は変更できない仕様になっています。

そのため、チャンネル名は A社-B社共有チャンネルなど、コラボレーションをする双方の組織が認識可能な名前をつけることをお勧めします。

【おわりに】

まだ登場したての機能かつパブリックプレビューなので、まだまだこれからという立ち位置ですが、生産性向上に欠かせない機能だと思いますので、今後も注視したいと思います。